

文字に想いを込める。
子どもたちの
挑戦と成長に寄り添う、
日本最大級のコンクール。

「絶対に叶えたい目標に
向かって、書き続けました」



JA共済 全国小・中学生 書道コンクール
半紙の部
文部科学大臣賞受賞
赤津みやびさん

小学1年生から、
毎年欠かさず
書き続けた。

「努力や挑戦をすればするほど、ちゃんと認めてもらえる場でした」
赤津みやびさん。令和3年度JA共済全国小・中学生書道コンクールの文部科学大臣賞受賞者です。
書道と出会ったのは小学1年生、それ以来9年間、毎年欠かさず応募を続けてきたといいます。
「小学3年生で茨城県コンクールの特別賞をいただいたから、全国の大きな賞をずっと目標にしていたんです」
受賞の報告を受けたときは、言葉が出ないほどビックリしたと振り返ります。
「おめでとう！と家族が褒めてくれて、学校や書道教室の先生もすごく喜んでくれたことは忘れられないです」

困難の先に
たどり着いた、
力強く美しい作品。

中学3年生は最後のチャンス。ところが、入院が決まっていた。
「課題が発表されてから、入院までに一度作品を完成させたんです。でも、病室や退院した後も書きたい気持ちが続いて、もう一度書きたいと先生に伝えました」
絶対に諦めない、その強い思いで半紙に向き合い続けたのです。
退院後も書道教室や自宅で練習を続け、休日は5〜6時間に及ぶことも。
困難の先にたどり着いたのが、審査員から「悠々として立派」と評された作品。「力強く、美しく書くことを心がけました。自分でも納得の仕上がりです」と迷いなく話してくれました。
また、昨年の経験から学びもあったといいます。
「入院している間、作品を研究したり、すでに書いた作品と先生のお手本を見比べてみることで、自分に何が足りないかを見つめ直すことができました。それまではとにかく書き続けてきたんですが、休憩も大事だになってわかりました」
コンクールに挑戦し続ける上で、大



赤津みやびさん

きな原動力になったのが大切な周りの人の支え。
「毎年応募の時期になると、同じ書道教室に通う友達たちとお互いに励まし合いながら頑張りました。毎日車で送り迎えしてくれたお母さんやおばあちゃん、そしてすごく面白くて熱心に教えてくれる書道教室の先生、みんなにありがたそうと伝えたいです」

半紙の上の
文字が、成長を
教えてくれる。

「書いていると時間を忘れちゃいます。書道教室に行くと、その日初めて書いた字と2時間練習した後のものだと、ちゃんと成長が感じられるのがうれいんです。モチベーションにもなるし、何よりも楽しいなって思います」
応募し続けてよかったと思うことは、「やっぱり最後の最後で目標を叶えられたこと。さらに、こんなニュースも待っていました。卒業アルバムに『輝跡』という作品が選ばれたんです」
4月から高校生、新しい毎日が始まっています。
「資格に挑戦してみたいです。書道ももちろん続けて、作品展にもたくさん応募していきたいと思っています」
このコンクールで学んだという、努力することの大切さを胸に。真新しい制服に身を包みながら、その瞳はすでに次の目標を見つめていました。

一人ひとりの挑戦を、応援し続けたい。



左) JA常陸 友部支店 飛田支店長
右) JA共済連 茨城県本部 山田課長

「子どもたちのころ県コンクールに応募したんです」と懐かしそうに語ってくれた山田さん。県による作品の表彰や展示会では、親世代からも同じような声が寄せられるとのこと。
「全国で65回、茨城県で57回という歴史は、広く世代をまたいで地域へ貢献できた証だと思います。今、挑戦を支える側で携わっているのは、感慨深いものがありますね」
毎年、当たり前のように行われるコンクールを、この先もつないでいく。地域に寄り添う私たちの大切な取り組みです、とお二人。
子どもたちと一緒に、JA共済の挑戦と成長も続いていきます。

「当たり前」の
活動として
取り組み続ける。

コンクールは、
地域との大切な
つながり。
県内の子どもが大きな賞に選ばれたのは、率直にうれしい。
JA常陸 友部支店の飛田茂明さんとJA共済連茨城県本部の山田直樹さんは、口をそろえて言いました。
コンクールを通して、県内の子どもたちの挑戦と成長をサポートするお二人です。「地域の方との交流が生まれる、とても大切なコンクールなんだよ」と諸先輩方から教わりました。子どもたちと取りまわってくださる学校の先生の想いが詰まった作品をお預かりしています。この地域全体でつくる活動を、次世代の職員にもしっかり受け継いでいきたいです」と飛田さん。穏やかな口調に、強い意志が込められていました。

今年も作品募集受付開始！応募作品数100万点を誇る「JA共済 全国小・中学生 書道コンクール」。



書道コンクール
キャラクター
「キョシヨウ」

© 2008 JA-KYOSAI

第66回(令和4年度)書道コンクール課題																			
学年	小学生					中学生			小学生			中学生							
	一	二	三	四	五	一	二	三	一	二	三	一	二	三					
糸幅の部	いろり	なにかま	竹とんぼ	雪わり草	緑の草原	認め合う心	個性の尊重	郷土の魅力	花舞う季節	みち	ほたる	ひまわり	友達	喜びの歌	発芽の時	虫雪の功	大願成就	農業技術	
半紙の部																			

【主催】 農業協同組合 / 全国共済農業協同組合連合会 【協賛】 (一社) 全国農業協同組合中央会 / (株) 日本農業新聞 / (一社) 東の光協会 / 全国農業協同組合連合会 / 農林中央会連 / 全国厚生農業協同組合連合会 【後援】 文部科学省 / 全国都道府県教育委員会連合会 / 全国市町村教育委員会連合会 / 全国連合小学校長会 / 全日本中学校長会 / (公社) 日本PTA全国協議会

応募の詳細はコチラ ▶ [JA共済 コンクール](#) 検索

※応募方法はお住まいの都道府県によって異なります。詳しくは、コンクールホームページでご確認ください。 <https://social.ja-kyosai.or.jp/contest/>

